平成２５年度サバティカル研究者（　B（一般））研究成果報告書

平成２６年　４月　１８日

福岡教育大学長　　殿

所属講座・センター　　教職実践講座
職　　名　　教授
氏　　名　　小泉　令三　　㊞

研究実施場所
福岡教育大学／クイーンズランド大学

受入教員の職・氏名
教授・Paula Barrette

研究期間
平成２５年１０月１日　～　平成２６年３月２０日

研究題目
子どもの社会性育成のための学校・家庭・地域社会の連携

研究成果概要（別紙のとおり）

別　紙

研究成果概要

１．研究の目的

わが国の子どもの社会性を育成するために，学校・家庭・地域社会の連携が進められるように，海外における取組について調査研究を行い，今後の教育実践のための知見を得る。

２．研究の内容

(1)家庭や地域社会の環境が厳しい子どもを含めた全ての子どもの社会的能力を育成し，将来の社会的自立が図れるように，小学校入学前または家庭を対象に教育プログラムを用いて支援している海外の研究サイトに滞在し，その研究方法と実施状況を調査研究した。

(2)研究サイトにおける研究成果の社会的実装方法を調査し，わが国の教育実践への適用を図るための方策を検討した。

３．研究の方法・進め方

(1)幼児を対象とした心理教育プログラムの内容と実施方法を調査した。

(2)保護者を対象とした心理教育プログラムの内容と実施方法を調査した。

(3)わが国での実践の拡大に向けて，有効な方策を検討した。

４．研究体制

本学でこれまでの研究を継続し推進するとともに，平成 25 年 12 月～平成 26 年 1 月の 3 カ月間は，クイーンズランド大学（オーストラリア，ブリスベン市）において受入教員とその共同研究者等との連携により調査研究を行った。

５．平成２５年度実施による研究成果

(1) 幼児を対象とした心理教育プログラムの内容と実施方法の調査

〇フレンズプログラム

クイーンズランド大学のポーラ・バレット（Paula Barret）教授が開発したフレンズ・プログラム(FRIENDS Programs)は，子どもの不安の軽減やうつ病の予防を目的にした学習プログラムで，認知行動療法とポジティブ心理学を基盤としている。4～7 歳を対象としたファン・フレンズ（FUN FRIEMDS)，8～12 歳対象のフレンズ・フォー・ライフ（FRIENDS FOR LIFE)，13～15 歳用のマイ・フレンズ（MY FRIENDS)，そして 16 歳以上向けのストロング・ノット・タフ（STRONG NOT TOUGH）といったプログラムが用意されている。

〇プログラム実践の体験

ファン・フレンズの 10 日間集中講座に，ファシリテーターの補助者として参加する機会を得た。プログラムに参加したのは 4～7 歳の幼児 9 名で，通常は 1 週間に 1 回のペースで実施する内容を，夏休みを利用して 2 週間の間に連続して体験する形態になっていた。1 回 90 分のセッションの間に，全員でゲーム，歌，身体運動，ワークブックの記入などを行い，学習を進めていた。この間，隣室では別の担当者によって，保護者用のセッションが並行して実施されていた。

○プログラムの実践と普及方策

プログラムの普及はパスウェイズ健康研究センター（Pathways Health and Research Centre）で行われている。これは大学外にある組織で，NPO 法人のような運営形態である。大学院生やポストドクターが研究を実施して論文にまとめ，エビデンスを発信するとともに，センターでもスタッフを雇用して，集団セッションあるいは治療的な色彩の強い個人セッションを実施している。センターでのプログラムへの参加は有料で，医師の紹介による治療であれば健康保険が適用される。

学校や幼稚園等では，教師やスクールカウンセラー，あるいはチャプレン（学校や機関にいる聖職者）が一定の訓練を受けて実施している。なお，幼稚園や小中学校等での実践には，時間数や実施状況（授業数，グループの大きさなど）に差があるようである。

⑵ 保護者を対象とした心理教育プログラムの内容と実施方法の調査

○トリプル P

クイーンズランド大学のマシュー・サンダース（Matthew Sanders）教授が開発したトリプル P（Triple P: Positive Parenting Program）は，保護者のための子育てプログラムで，1979 年の開発以来 30 年以上にわたって，改良と拡張が続けられてきている。このプログラムは，保護者の子育てに関する自己効力感の向上と行動の改善を図り，それによって子どもの社会的能力や自尊心を高め，問題行動の予防を進めることを目的としている。現在，教材や指導書は 17 の言語に訳され，25 ヶ国以上で実施されている世界的規模のプログラムの一つとなっている。

○プログラムの実践と普及方策

トリプル P の全世界での普及を目指して，トリプル P インターナショナルという会社が設立されており，ブリスベンの本社で約 40 名，国外では全世界で約 50 名のスタッフが勤務している。クイーンズランド大学とプログラム使用に関する契約を結び，大学に使用権料を支払うとともに，ユーザーの反応や新たなニーズを大学側にフィードバックしている。

プログラムの実際の運営は国によって異なるようであるが，オーストラリアでは州政府や自治体がトリプル P インターナショナルと契約を結んで，キリスト教会等が運営する福祉関係の NPO 法人等で働くソーシャルワーカー等の社会福祉活動の専門家に訓練の提供を依頼する。そして，これらのワーカーが無償で，担当区域の保護者にプログラムを提供するようなシステムになっている。なお，参加保護者の中には，虐待に関連して司法機関等から受講を義務づけられる者もいるとのことであった。

一方，大学ではサンダース教授が運営する子育て・家族支援センター（Parenting and Family Support Centre）において，博士課程の学生を中心にプログラムの改良と新たなバージョンの開発および効果検証が行われ，エビデンスにもとづく研究成果が蓄積・発信されている。滞在期間中には，祖父母対象版，オンライン版，いじめを受けた児童生徒の保護者対象版，そして中国での効果検証等が進行中あるいは論文発表準備中の状態であった。大学における研究と，大学外のトリプル P におけるプログラム普及活動の連携が効率よく進められており，社会科学分野における産学連携の先駆的モデルの一つと言えよう。

６．今後の予想される成果（学問的効果、社会的効果及び改善点・改善効果）と研究の展望

わが国の子どもの社会性を育成するために，サバティカル研究期間中の国外における調査研究をもとに，実践の拡大に向けての有効な方策の検討をおこなった。

○社会性と情動の学習の拡張

これまで，子どもの社会性を高めるための学習プログラムとして，社会性と情動の学習の枠組みの中で，SEL-8S（Social and Emotional Learning of 8 Abilities at the School）を開発し，効果検証と社会実装を行ってきた。これは，義務教育段階の小中学生用であるが，今回のオーストラリアでの調査により，入学前の幼児向けの学習プログラムの必要性と，また保護者との連携やさらには保護者への働きかけを意図した取組の必要性を強く感じた。さらに，これらの実践を推進するための教師対象のプログラムも検討している。

(a) 幼児向け SEL プログラム

すでに学習プログラムの構成案は作成しているが，具体的な内容作成はこれからの作業である。日本の幼稚園や保育所の実情に合わせた実施が可能なように工夫をし，また適切な指標によって効果検証を行っていきたい。

(b) 保護者との連携および保護者への働きかけ

わが国でも保護者との連携の必要性はよく言われるが，推進の方策については，あまり具体的な取組は提案されていない。そこで，学校での SEL-8S の実践に，保護者も積極的に位置付けた取組を検討していきたい。すなわち，学校だけでなく家庭でも子どもの社会的能力を伸ばせるように，保護者に積極的な関与を依頼し，それを通して学校と家庭との連携を推進していく方法である。

将来的には，これをさらに進めて，子どもへの家庭での教育を機に，保護者自身の子育てにおける社会的能力を高めることができるプログラムの開発を考えていきたい。義務教育段階以前の子どもを介しての保護者への働きかけという点では，保護者だけを対象とする従来の取組よりも，さらに幅広いアウトリーチが可能になると予想される。

○教師のための研修プログラム開発

子ども（幼児，児童，生徒）を対象とした SEL プログラムの実施や，保護者を積極的に位置付けた実践には，教師の指導力の向上が欠かせない。わが国では，SEL プログラムの運営を行う担当者（エージェント：agent）が不足しているので，教師の役割は重要である。

すなわち，オーストラリアの場合，学校においては教師のみならずスクールカウンセラーやチャプレン（学校にいる聖職者）といったエージェントがいて，学習プログラムのための訓練を受け，実践をリードしている。また，地域社会にあっては，キリスト教会等が運営する福祉関係の NPO 法人等で働くソーシャルワーカー等の社会福祉活動の専門家がエージェントとなって，保護者支援にあたっている。こうした人材が恒常的に配置されている学校や地域は日本ではごくまれであり，学校の教師が果たす役割は大きい。

よって，教師のための研修プログラムの必要性が高まると予想されるので，その開発と

効果検証を行っていきたい。

７．主な学会発表及び論文等（予定を含む）

・幼児向けSELプログラムの作成と効果検証（予定）
・学校におけるSEL-8S実践を通した保護者との連携および保護者への働きかけ（予定）
・教師のためのSEL-8S研修プログラム開発と効果検証（予定）